



3次元形状測定による設備部品の経時変形評価

経年・使用劣化による設備部品の変形、磨耗、損耗状況を可視化いたします。

特徴と用途

- ① 3次元形状測定により取得した形状データ(STL点群データ)と設計データ(3D-CADモデル)の位置座標を合わせ、設計当初からの変形、磨耗、損耗等による形状偏差をカラーマップで表示いたします。
- ② 設計データをお持ちでない場合でも、形状データから3D-CADモデル、または仮想幾何形状(平面や円筒など)を作成し、それらとの形状偏差を表示することも可能です(測定データ同士の形状偏差も表示可)。

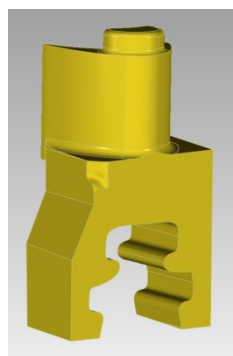
形状測定仕様および出力ファイル形式

測定精度 : ①0.046mm、または②0.1mm (①アーム型レーザースキャナー、または②ハンディ型カメラ)
 測定対象サイズ : ①アーム稼働範囲2500(mm)、または②一辺400~1000mmの立方体以内(いずれも現地計測可)
 出力ファイル形式 : IGES、STEP、PARASOLID または CATIA-V4、-V5、AutoCADのネイティブファイルなど

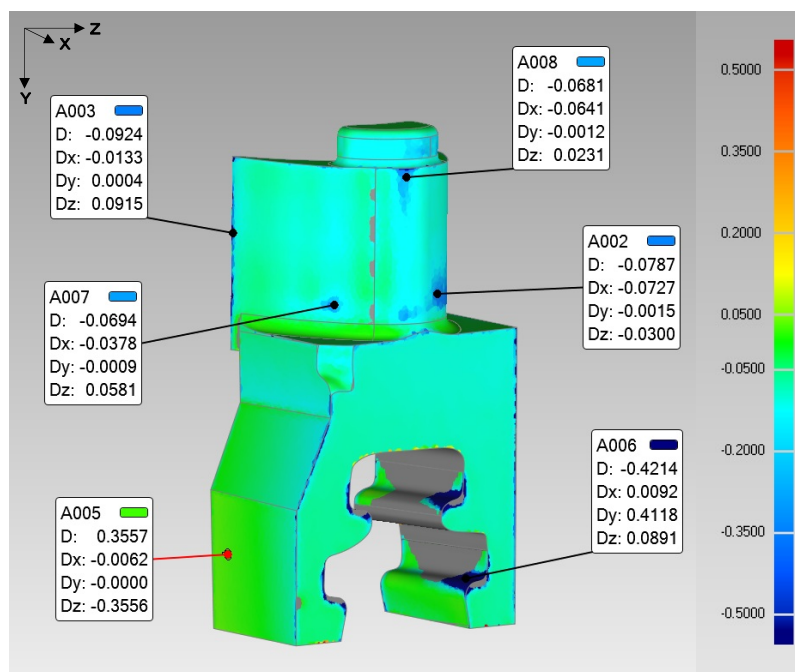
発電用タービンブレードの解析事例



1) 形状データ(STL点群データ)



2) 設計データ(3D-CADモデル)



3) 形状データと設計データの位置座標を合わせ、形状偏差をカラーマップで表示(単位:mm)

